

## 説教余滴 2019年5月19日「イワシャジン」

5月初旬、田浦トンネル手前の石川さんの門前に『イワシャジン』の苗が出ていました。愆なさるのですが、持ち帰って楽しんでください、とのお気持ちが書いてあります。以前、ホトトギスの苗を戴きました。今ではプランター一杯に育ち、たくさんの花を付けてくれます。たいへんありがたいことです。

イワシャジンとの出会いは、札幌でした。厚別の南郊に植え木村があります。その中に山野草・特に高山植物の店があり、何回か訪れました。その店で、この存在を知りました。こうした野草を探している方にお送りしたので憶えています。

当地に来てからは、石川さん由来で一度植えたことがあります。そのためでしょうか。裏に置いてある草花の間からイワシャジンが伸びています、と清美さん。表も裏もすでに花芽があり、今にも開きそうになっています。

イワシャジン(キキョウ科 / ツリガネニンジン属)はやや大型の多年草で、関東地方南西部や中部地方南東部の山地の岩場に見られます。霧が多い谷や滝の飛沫がかかる場所に生え、秋に紫色の釣り鐘形の花が、岩場から垂れ下がるように開くさまはとても風情があり、人気の高い山野草の一つです。

地下にゴボウ根を束ねたような根茎をもち、春の芽出し後に、株元に栄養葉と呼ばれるスぺード形の葉を広げます。その中心から、細い茎と糸状の葉を立ち上げて、茎の先端から花芽を伸ばします。夏の間には花芽が成長し、秋には次々と花を咲かせます。花が終わると、茎は枯れて再び栄養葉を広げます。このときに早いものでは結実しています。冬前には栄養葉も枯れて休眠します。水遣りと遮光が課題となります。

この仲間は地域変異が多く、それだけ集めても楽しいものです。また、最近では白花やダブル咲きの花も選別されて流通し、マニアの収集欲を高めています。